

再任に向けた決意と所信

学長 三島良直

平成27年7月2日

内容

1. 再任に向けた決意
2. 大学改革の推進に向けた今後の方針・施策
3. 世界トップテンに入るリサーチユニバーシティを目指して

東京工業大学が、1)個々の学生が卒業・修了までに科学技術をベースに社会に貢献するために必要な能力と気概を身につけることができる世界トップレベルの教育を提供し、2)個々の教員がそれぞれの専門分野で世界最先端の研究成果を挙げて本学の国際的地位を高めるために必要な研究環境を整備することに全力を尽くし、本学が知と人材の世界的還流のハブとなるための素地を構成員一同の団結のもとで築きたい。

内容

1. 再任に向けた決意
2. 大学改革の推進に向けた今後の方針・施策
3. 世界トップテンに入るリサーチユニバーシティを目指して

東京工業大学 平成の改革 骨子

～ 世界最高の理工系総合大学：「世界トップ10に入るリサーチユニバーシティ」を目指すために ～

■世界に雄飛する気概と人間力を備え、科学技術を俯瞰できる、優れた理工人材を輩出する

学生が力を育み、教職員が実力を思う存分発揮し、新しい活力ある社会を切り拓く

■人間社会の持続可能な発展を先導する革新的科学技術の創出と、体系化によって社会に貢献する

教育改革 H28実施

- (1)「世界のトップスクールとしての教育システム」の構築
- 学部と大学院が一体となって教育する新体制を構築し、カリキュラムや講義などを全面的に見直すとともに、世界に対して積極的に公開し、世界のトップスクールとしての教育システムを構築する。
 - 世界トップクラスの大学とのカリキュラムや授業内容の整合性がとれ、単位互換を容易にするチューニングが可能な教育システムへの転換を進める。
- (2)「学び」の刷新
- 学生が自らの興味・関心に基づいて広く、かつ、体系的に学べるようにカリキュラムを刷新する。
 - 学びを「年次進行を基本」から「何をどれだけ学んだかを基本」に改める。
 - 教育の密度を高め、学生の成績評価と修了認定を厳格化する。
- (3)大胆な国際化の推進
- 世界トップクラスの教育システムを以って、東京工業大学の教育を世界に発信し、本学を世界から優れた人材が集結する交流の拠点に高めていく。
 - 理工系総合大学としての本学の特色等を活かしつつ、海外から多くの学生を受け入れ、海外へ積極的に出て行く学生を育てる。
- (4)学部入試を刷新し、新教育課程を構築する(H28以降)
- 教育改革後の組織に対応した入試を実施する。
 - 高大連携等の取組を充実させる。また、社会人向けコース、プライオリティコース等の新たな課程を検討・構築する。

社会連携改革 H26から

- (1)社会への提言機能の充実
- 科学技術政策を提言する仕組みの構築
 - 社会・地域・海外から希求されるプロジェクト及びプロジェクト実施組織の柔軟な設置と運営
- (2)産学連携機能の充実
- 共同研究講座等の積極的運用
 - 知的財産の有効利用、大学発ベンチャーの積極的支援
- (3)広報機能の充実
- 海外オフィス等の充実と学生獲得の努力
 - 研究成果等の発信機能の充実 (ResearcherIDなど)

国際化改革 H26から

- (1)留学、交流プログラムの充実
- 大半の学生に少なくとも2週間以上の留学を可能とする交流協定、サマースクール等の検討と実施
- (2)世界的な知の拠点としての環境整備
- 世界トップクラス大学の研究室、教員、学生が常時東工大で活動出来る環境を整備
 - 外国人教員の充実、給与体系の検討
 - 教員、事務職員の国際コミュニケーションスキル向上

研究改革 H28実施

- (1)「世界の研究ハブ」として、国際的な研究活動を展開するためのガバナンス強化
- 全学が一体となって多くの研究成果を生み出すとともに、その質を絶えず向上させるため、研究マネジメント体制を抜本的に強化する。
 - 国際競争力のある研究を推進するため、新たな人事採用システムや柔軟な人事・給与制度を導入して、世界から優秀な人材を集めるとともに、教員構成の多様化を進める。
- (2)世界の先陣を切って新たな研究分野を開拓していくための柔軟な研究体制の構築
- 人類社会の発展に大きく寄与する研究成果を創出するため、「科学技術創成研究院」を設置し、研究組織をフレキシブルに構築、運営する。
 - 新たな最先端研究拠点を形成し、国際的な認知度を高めるとともに、世界の研究者を惹きつけて、柔軟な体制のもとで研究を実施する。
- (3)総合的な研究力を高めるための環境整備
- 教員に限られた時間という資源をより多く教育研究に振り向けられるような環境を整備し、「世界の研究ハブ」として独創的な発想に基づく研究成果を一層創出できるよう、支援体制を充実する。また、次世代を担う人材を長期的な視点で育成する。
 - 研究設備等の共有化や専門人材の活用により、研究の効率化、研究資金の獲得、学内外連携の強化及び国際化等を推進する。

ガバナンス改革 H26から

- (1)運営組織、キャンパス機能改革
- 学長の権限強化、全学での人事ポスト管理・運用
 - 運営組織、機構等の機能チェックと再構成及び職階の再検討
 - 部局事務体制の学院体制への移行
 - IR機能の強化
 - キャンパス構想の策定・具体化
- (2)人事改革
- 採用分野、能力評価のシステムに関する全学的ルールの明確化
 - 給与システムの弾力化
 - 新規採用、任期付任用と、いわゆるテニユアへの昇任手続きの明確化
 - 教員育成策、サバティカル、ポスドク対策の実施
- (3)財務改革
- 重点施策への集中的配分(選択と集中)
 - 資金使用の見える化、配分の見直し

大学改革の推進に向けた今後の方針・施策(1)

◎ 新教育システムの実質化:

- ・ 学院・研究教育院体制による教育システムの確立と実行
- ・ 成績評価・達成度評価の全学統一基準での実施
- ・ 学生を自主的学修姿勢に導く新たな教育手法の採用
- ・ 学生の気概を育てる教育へ向けた教員の意識改革の醸成

◎ 研究力強化と本学の強みの顕在化

- ・ 科学技術創成研究院における研究組織の再構成と研究環境の整備
- ・ 学院・研究院間の教員交流による研究グループの活性化
- ・ 国内外の教育研究機関との積極的な人材交流と国際共同研究の推進
- ・ 国内外の企業との実質的共同研究に必要な体制構築
- ・ 研究費不正使用・研究不正を起こさない風土の醸成に向けた不断の注意喚起

大学改革の推進に向けた今後の方針・施策(2)

◎ ガバナンス改革の推進

- 教育改革、研究改革を含めたこれからの大学運営に必要なガバナンス改革をできる限り構成員の理解と協力を得つつ推進

◎ 国際化の推進(SGU事業の展開)

- 世界トップクラスの教育システムの公開と国際認証取得に向けた準備推進
- 科学技術創成研究院における世界の研究ハブ構築と国際共同研究の推進
- 世界トップ大学との連携事業の戦略的展開

◎ 新たな経営基盤の構築

- 運営費交付金の減少、電気料金の高騰等々による大学運営の逼迫に臨み、財務運営の仕組改革や多様な経営資源の獲得へ向けた施策の立案・実施

内容

1. 再任に向けた決意
2. 大学改革の推進に向けた今後の方針・施策
3. 世界トップテンに入るリサーチユニバーシティを目指して

本学の国際的評価向上につながる取組み

研究活動の刷新による国際化

東工大博士研究員制度
の創設

国際的最先端研究拠点
の形成

全スペースの30%相当の
学長裁量スペースの確保

学長裁量経費の倍増

学生・研究者の国際交流

国際共同研究の促進

教育システムの刷新による国際化

教職員ユニット派遣制度
の創設

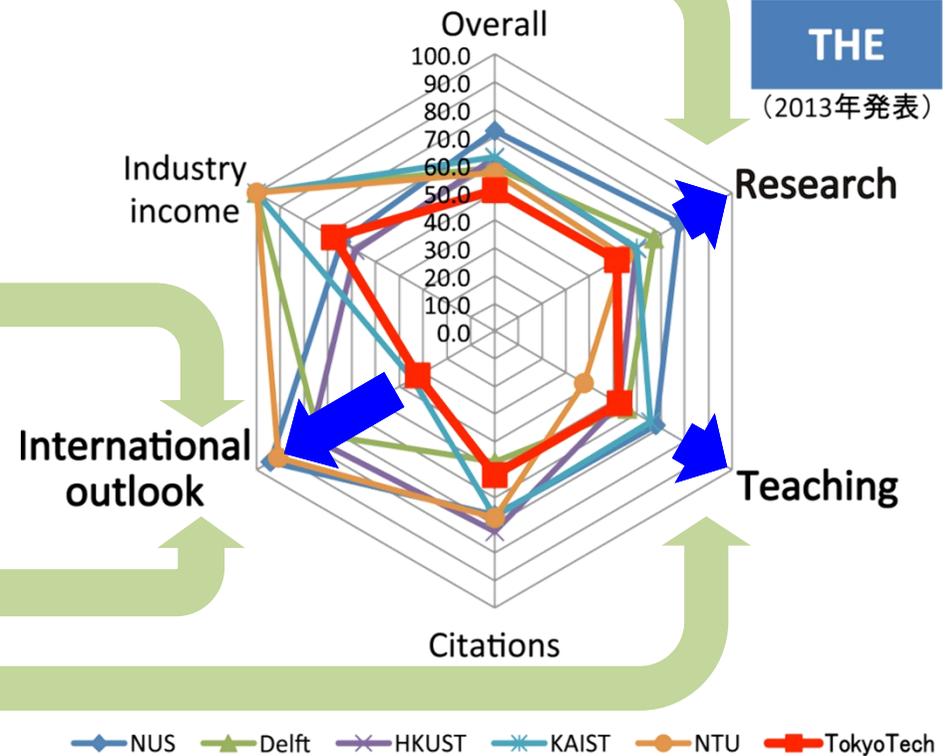
国際標準の教育の実施

教員人事・スペース等
の全学管理・運営

一元的意思決定組織
の構築

学生・教職員の国際交流

学生・教員の多様性向上



これらを可能にするガバナンス改革

国際的評価に関する教育・研究力

● 本学の強み

－ 研究面

● 分野ごとの評価

物理学等の自然科学

＝NISTEP: V1Q1、

QS2015: 世界21位(国内3位)

材料科学・化学

＝NISTEP: V2Q2、

QS2015: 材料科学 世界20位(国内2位)

化学 世界22位(国内4位)

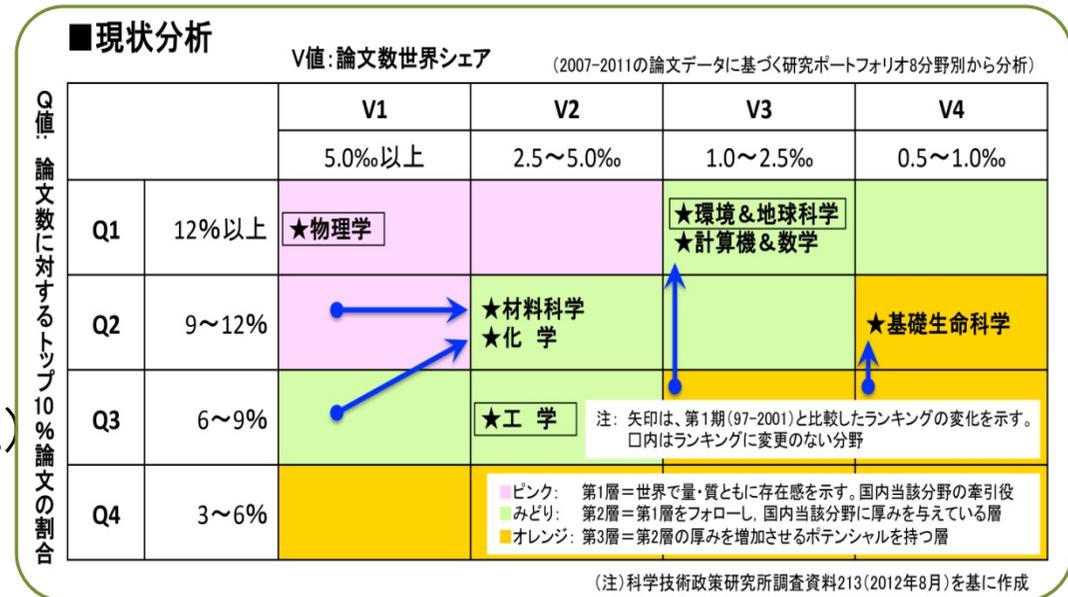
－ 教育面

● 修了生に対する評価

－ The New York Times誌とThe Financial Times誌による

「What the job market wants」で

2012年 世界14位(国内1位) 2013年世界25位(国内2位)



国際的視野での教育システムの刷新

国際通用性の担保

- 教育内容の国際的チューニング
- 教育情報の国際的発信
- 国際的認証評価の受審 (JABEE、EURO-ACE等)

教育内容の国際的チューニング

- 単位互換と教育情報の国際的発信

世界トップクラスの大学 東京工業大学

単位・学位の認定

教授方法の調整

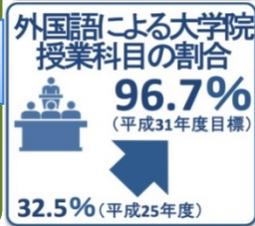
カリキュラム・シラバスを世界に公開

カリキュラムの構造等の調整

単位の換算調整

Physics I 8.01

物理学 I 101



学生の国際交流促進



大目標 (就任時; 2012.10.1発表)

我が国最高の理工系総合大学として、これまで精練してきた力を最大限に生かし、「東工大ならではの」の強みを武器に、世界最高の理工系総合大学をめざす



本学のミッションを明確にし、学長のリーダーシップのもと、執行部の強固な連携と教職員の団結により、広く透明性を確保した大学運営体制改革を共に実現し、
学生が最高の教育研究環境で勉学に集中でき、
教員が伸び伸びと研究、教育に打ち込め、
職員が生き生きと職務を遂行できる、
より良い環境を築き上げる。